



## メダカの子は、いつ親といっしょに飼えるの

### メダカの産卵は夜明けに

メダカは、春から秋にかけて、水温が18℃以上になると、卵を産みます。

メダカの産卵は、いつも夜明けです。明け方、オスがメスを追いかけてまわし、メスは細い系のついた卵を産み、しばらく自分のおなかにくっつけています。やがて、卵は、水草などにくっつきます。

卵や生まれたばかりのメダカの子魚は、別の水そうに移さないと、えさとまちがえられて、メダカに食べられてしまいます。そこで、卵のついた水草を取り出し、別の水そうに入れ、そっとしておくと、水温が20℃ぐらいなら10日ほどで、卵がかえります。

### 親の3分の2の大きさになったら、いっしょに飼える

赤ちゃんメダカは、2～3日は、おなかのふくろにある栄養分で生きています。3日目ぐらいから、ゆで卵の黄身をすりつぶしたものや、キンギョのえさをすりつぶしたものを水でといて、1日に3～4回、えさとしてあたえます。

メダカの子どもの体が、親の3分の2くらいの大きさになるまで、そのまま別の水そうで育てます。親と同じくらいの大きさに成長したら、もう、親と同じ水そうに入れてもだいじょうぶです。（監修・安部 義孝）

